

大阪大谷大学 令和6年度春季特別展

「大とんだばやし展 一埋文調査の歩みとこれから」

2024（令和6）年5月25日（土） 博物館講座

喜志南遺跡と古市古墳群

富田林市教育委員会文化財課 角南 辰馬

1. 『市史』刊行ごろの古墳時代（前・中期）像

- （1）古墳時代前期（3世紀中葉～4世紀後半）
 - ・巨大前方後円墳は大和に造られる（大和・佐紀古墳群）
 - ・市域では真名井古墳が存在感
 - 玉手山9号墳（柏原市）とほぼ同時期の、南河内最古級の前方後円墳（墳長約60m）。最古級の特異な粘土槨。副葬品に2面の銅鏡（三角縁神獣鏡、画文帯神獣鏡）など
 - ・市域には「すべての古墳の形」が勢揃い
 - 前方後円墳・・・真名井古墳、廿山古墳、宮神社裏山1号墳 ←計3基もある
 - 前方後方墳・・・板持3号墳
 - 円墳・・・板持丸山古墳（←銅鏡出土）、鍋塚古墳など
 - 方墳・・・宮林古墳、樟木谷古墳 ←近接して向きを揃えて並ぶ

- （2）古墳時代中期（4世紀後半～5世紀代）
 - ・古市古墳群最初の巨大前方後円墳、津堂城山古墳が築造される。中期の幕開け
 - ・市域では円墳のみが築造され、墳丘規模も縮小・・・新家古墳、彼方丸山古墳、川西古墳
 - 「石川の中・上流域には有力な在地豪族が存在しなかった」（『市史』第1巻）

2. 『市史』刊行後の調査・研究

- （1）西大寺山古墳群の発掘調査
 - 山中田1号墳（前方後円墳もしくは円墳）・・・当時の最新式の短甲、600点以上の玉類
 - ただし、西大寺山古墳群と同一の古墳群と考えられる寛弘寺古墳群は、4世紀後半から7世紀まで連続と古墳が造られる特殊な地域
- （2）石川西岸の埋没古墳
 - ・喜志遺跡の調査
 - 人物埴輪（巫女）の頭部が出土（古墳そのものは発見できず）
 - 大王墓に並べられていても違和感のない精巧な作り。5世紀後半か隣接する東阪田遺跡（羽曳野市）でも、人物埴輪（巫女）の胴体が出土 ←大阪府の調査
 - ・錦織遺跡（川西古墳の南側）の調査
 - 葺石を施した墳丘斜面を確認 →小さくない古墳が存在？

- （3）過去に出土した資料の再評価など
 - ・鍋塚古墳・・・短甲は当時の最新式。出土したとされる銅鏡の存在も明らかに
 - ・川西古墳・・・眉庇付冑、短甲の再検討。墳丘は発掘調査により帆立貝形の可能性

3. 喜志南遺跡での相次ぐ新発見

- （1）喜志南1号石室と初期須恵器（2014-1地点）
 - ・床面に円筒埴輪を敷き詰めた石室を発見。副葬品は見つからず、築造時期は不明（6世紀以降か）
 - ・円筒埴輪は5世紀前半の大型品で、小石室を造る際に転用（円筒埴輪の時期≠小石室の時期）
 - 埴輪は誉田御廟山古墳と同時期、大王墓の埴輪と比べても遜色なし。古市から運ばれた??
 - ・石室に伴うものではないが、周辺から初期須恵器（5世紀前半）も出土
 - 円筒埴輪が生産された時期にも、喜志南遺跡で人びとの活動があったことを示している
- （2）再び、埴輪が多量に出土（2021-1地点）
 - ・中世の整地土内から、円筒埴輪が多量に出土。ほとんどは、2014-1地点と同時期のものか
 - ・形象埴輪（家形など）も出土（同遺跡内では初）。ほかに、埴製不明品もあり
 - 近くに埴輪窯があった？ 未知の古墳があった??

- （3）浮ヶ澤古墳の発見（2021-2地点）
 - ・墳長20m前後の前方後円墳を確認
 - ・大量の円筒・形象埴輪が出土。形象埴輪は、家形、器財（盾・蓋（きぬがさ）・鞆（ゆき）形）、人物（巫女・武人・琴弾きの人物）、動物（鶏・水鳥・馬・鹿形）があり、豊富かつ多量。
 - 周溝の外側に配置されていたと考えられる。古市古墳群の大王墓の埴輪群像を写し取った？（ただし、簡略化されていると思われる）
 - 古市古墳群では、前の山古墳、市野山古墳、岡ミサンザイ古墳、峯ヶ塚古墳が同時期もしくは近い時期だが、それらの埴輪群像は不明
 - ・周溝内から加工された凝灰岩（ぎょうかいがん）とみられる石材が出土 →埋葬施設に使用？
 - ・須恵器も比較的多く出土。蓋坏（ふたつき）や高坏は、二時期に分けられる
 - 前者は最初の埋葬（5世紀末）、後者は追加埋葬（6世紀初め）に伴うものか？

- （4）ついに、5世紀前半の古墳本体の発見（2023-2地点、方墳）
 - ・喜志南1号石室（2014-1地点）や2021-1地点で出土した埴輪の、本来の居場所が判明。付近に埴輪窯が存在したことも間違いなしか
 - 喜志地区の人びとは、古市古墳群の古墳・埴輪づくりに参加していたのではないか

引用文献

市村慎太郎 2023「古市古墳群周辺の集落動態と古墳築造集団」『大阪府立近つ飛鳥博物館 館報』26
中村 浩 1981『和泉陶邑窯の研究』 柏書房

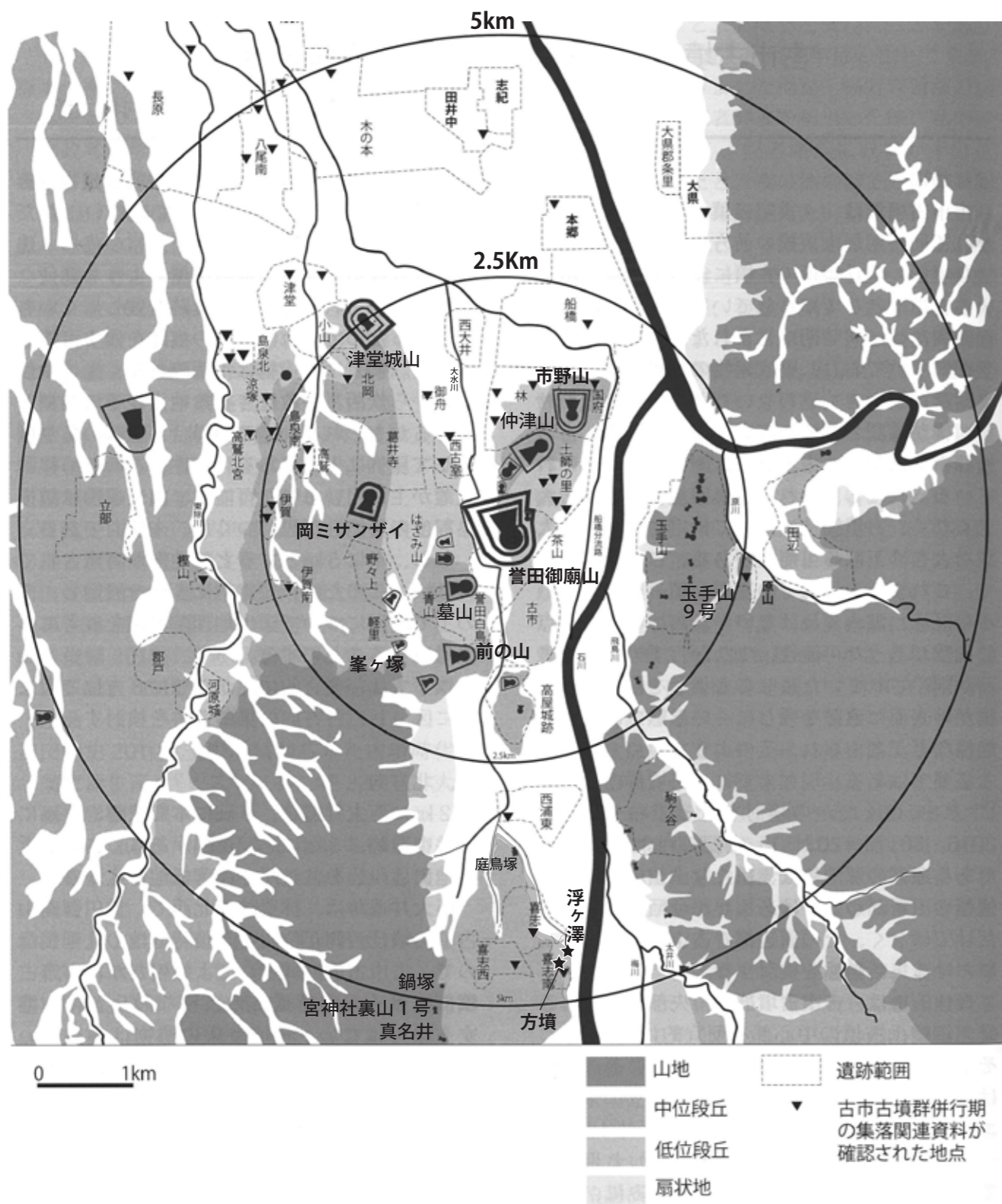


図1 古市古墳群と周辺の集落遺跡
(S=1/60,000 市村 2023 を改変)

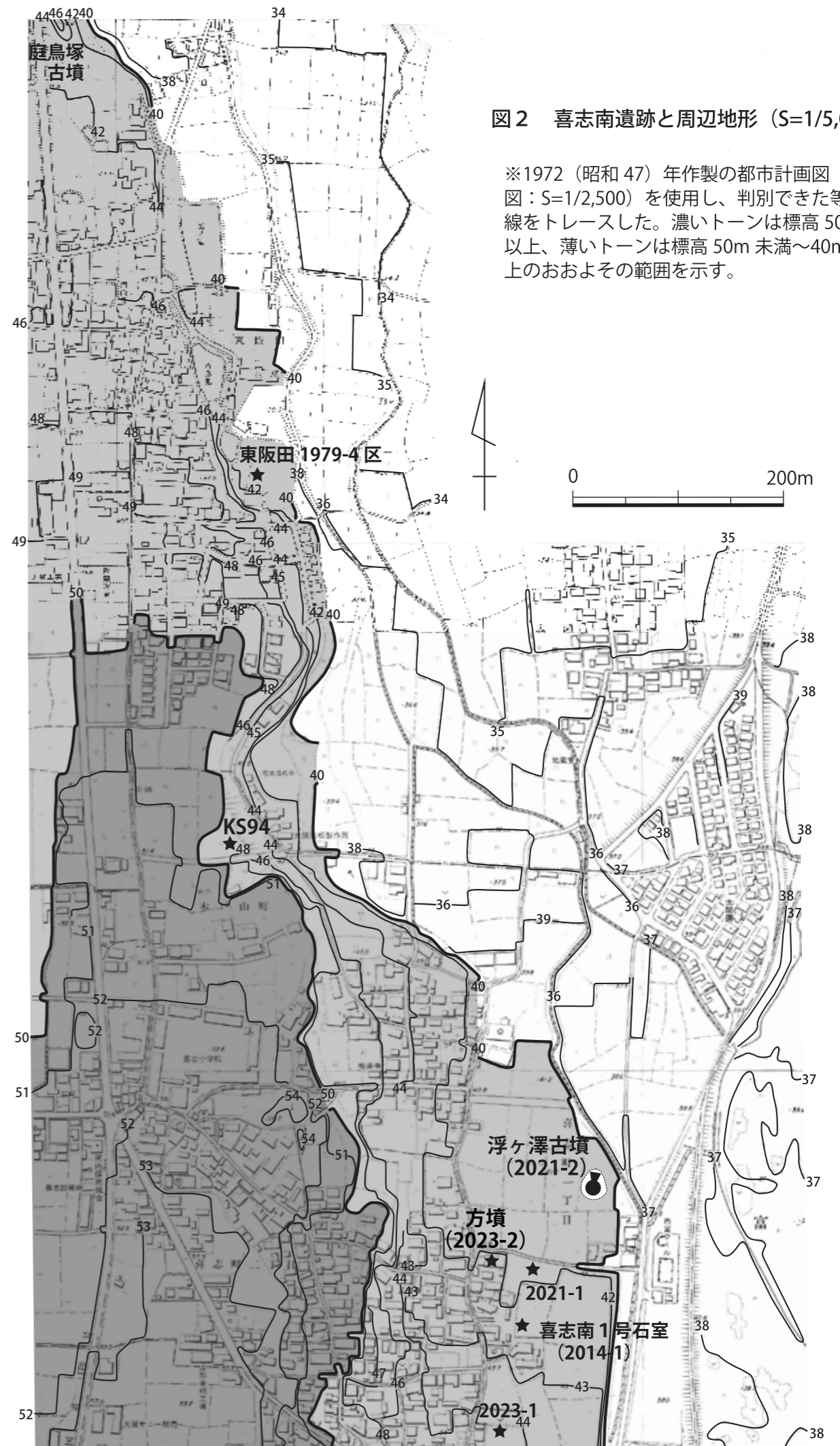


図2 喜志南遺跡と周辺地形 (S=1/5,000)

※1972 (昭和 47) 年作製の都市計画図 (原図: S=1/2,500) を使用し、判別できた等高線をトレースした。濃いトーンは標高 50m 以上、薄いトーンは標高 50m 未満~40m 以上のおおよその範囲を示す。

時期	器種	蓋 杯		高 杯		喜志南遺跡出土	
		(有 蓋)	(無 蓋)	(有 蓋)	(無 蓋)		
I 型 式	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	II 型 式	1					
2							

図3 中村編年における5世紀～6世紀中葉の須恵器（左）と喜志南遺跡の須恵器（右）
(S=1/4 左図は中村1981より引用、改変)

0 (1:4) 10cm